

小泉政権が「沖縄」に目を向けている。世界規模の米軍再編のなかで在沖米軍削減の好機が巡ってきたからだ。沖縄の負担軽減を参院選の目玉に据える構想もささやかれる。一方、米国は見返りに日米安保の強化を要求しているとの説も流れる。これは歴史的意義になるのか、それとも日米両政権の深謀遠慮なのか。

参院選

小泉首相の 隠し球は



沖縄



イランのラジオニュースが2月末、世界を駆け巡った。(ヒンラディ氏はバキスタンでかなり以前に捕まっていた。プシシュ政権は大統領選直前に政治宣伝するため、まだ公表をおさえている)米国防省高官とバキスタン軍当局者がただちに否定し、騒動は取った。だがこの手の噂は世界各地でささやかれる。権力者が選挙前に

「サブライズ」を用意するのは世界の常識なのだ。小泉首相もまたしかり。01年の参院選前はハンセン病訴訟の控訴を断念、03年の総選挙前は安倍晋三幹事長を擁護し、世間をあつと言わせた。今年7月の参院選前の「サブライズ」は何か。政界最大の関心事はどこにある。日朝交渉やイラク情勢は先行きが見えない。党、内閣の人事は説めぬ。究、内閣の郵政民営化の本格議論も参院選後の方向だ。

「サブライズ」を用意するのは世界の常識なのだ。小泉首相もまたしかり。01年の参院選前はハンセン病訴訟の控訴を断念、03年の総選挙前は安倍晋三幹事長を擁護し、世間をあつと言わせた。今年7月の参院選前の「サブライズ」は何か。政界最大の関心事はどこにある。日朝交渉やイラク情勢は先行きが見えない。党、内閣の人事は説めぬ。究、内閣の郵政民営化の本格議論も参院選後の方向だ。

が起きるかわからないポスト冷戦型に変わらうとしており、沖縄の海兵隊を東南アジアや豪州に分散することは軍事的には合理的なもので。

海兵隊削減が「サブライズ」になるのは間違いない。例えば、6月の米シーアイランド・サミットに合わせて予定されるプシシュ・小泉会談で打ち上げれば、小泉政権にとって参院選に向けた強い追い風となる。民主党の長島議員はこの点を懸念を見せる。

「ベトナム(国防総省)のステージュールでは米軍再編は大統領選後の予定でしょうが、ホワイトハウスは小泉首相との貸し借りのなかで参院選前に海兵隊削減の方向を打ち上げられる可能性がある。海兵隊削減は米国の都合が大きい。朝鮮半島情勢を見極める必要もあり、間違っても選挙に利用すべきではありません」

米国防省が普天間飛行場を簡単に手放すことが本意にあるのか。日米関係筋は「米軍再編全体を見る必要がある」と指摘する。米国防省は昨年11月下旬の事務レベル協議で普天間問題だけでなく、米西海岸にある陸軍第1軍団司令部を神奈川県の「キャンブ座間」に移転させる構想も打診した。アジア太平洋全域を担当する第1軍団司令部の日本移転は「日本の領域防衛と極東の平和と安全の維持」を目的とする日米安保条約を逸脱する恐れがある問題。沖縄の海兵隊削減と引き換えに日米安保改定を日本側の集団的自衛権行使の議論の踏み込み、日本を世界戦略の

「首相は意外性電撃性の人だ」米田には「プシシュのABC」という言葉がある。「Binay bin Habib Khan」以外は何でもこの頭文字。クリントン政権の政変を次々転換するといふものだ。プシシュ大統領とのマの合

う小泉首相もまた、橋本、小沢内閣の政策を否定して誕生した。小泉首相は沖縄との縁は薄い。橋本元首相らが主導したSACO合意の破綻に抵抗はなく、参院選前に普天間問題を動かして「これほど内閣もできなかつた」とを成し遂げた」と胸を張るつもりではないか。小泉政権は外交政策にも影響力を持つ自民党の中川秀直、国対委員長が単独インタビューに応じ、SACO合意にはこだわらず、日米同盟を強化するなかで沖縄の負担軽減を目指す考えを示唆した。米軍再編に合わせ、沖縄の海兵隊削減は進みますか。「日本はSACOの枠組みで協議を続けているが、今後SACOが想定していない変化が起きた場合、その枠組みが拡大した場合、日米同盟が日本側の新しい役割を加えるよう形で世界のために展開される